

fabC. vol.20 2026.01.01

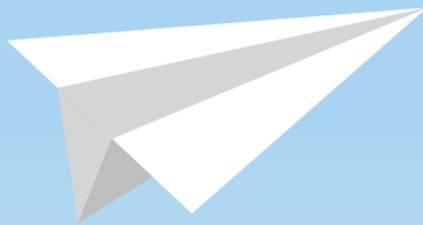
Editors 小川みなみ 篠木愛海
Publisher 東京理科大学 伊藤香織都市計画・都市デザイン研究室
〒278-8510 千葉県野田市山崎 2641 TEL 04-7123-4785
URL <https://www.rs.noda.tus.ac.jp/~i-lab/>
Print 祥美印刷株式会社

Members

Professor 伊藤香織
D 一谷和希
M2 安藤朋恵 陳嘉檀 辻本桜子 許山桂 萩尾匠 古林陸 劉雨萌
M1 上村知輝 大上翔子 鎌田航 窪木愛乃 小林凌真 佐々木俊太 佐野菜那 鈴木悠真
須藤喜己 高橋奎介 高久直希 森雅樹
B4 イジョンハン 小川みなみ 加藤開 川村悠貴 篠木愛海 高野由暉 津布久大輝
古川健琉 東祐輝

i-Lab

fabC. は伊藤研究室（東京理科大学創域理工学部建築学科）が発行するフリーペーパーです。
研究室の活動を中心に都市の研究とデザインに関する情報やメッセージを発信する媒体を目指しています。



fab C.

vol.20

Contents

fab C.20 号記念企画	-----01
水場のリニューアル 受賞	-----03
新宿展覧会プロジェクト	-----05
世界で学ぶ	-----07
さまざまなまちに訪れました	-----09
ピクニック / ピクニックインタビュー	-----11
論文・設計	-----19
	-----24

fab C.20 号記念

この度 fabC. は第 20 号を迎えました。20 号を記念して 11 号から 20 号の編集を担当した OB・

山崎亮さんと西上ありささんにお話を伺い、「夜のピクニック」に初挑戦しました。現在私は、取材して記事にすることを仕事にしていますが、その原点は間違いなく fab C. と伊藤先生のもとの経験にあります。

vol.11 担当 12 期 本橋

ピクニックに mouse on the keys の川崎昭さんに来ていただけたことが何よりも良い思い出です。デザインは最終的にロシアアヴァンギャルドを参考にしましたが、色んな本や ZINE を読み漁り検討したこともとても楽しかったです。

vol.13 担当 14 期 常泉

その年の 1 番のビッグイベントだった秋ピクニックはラグから自分たちで考えたので、それに合わせた円形の写真と文字やイラスト配置がピッタリはまった誌面が、どの誌面よりもインパクトのあるものになりました！

vol.15 担当 16 期 徳永

無理を承知でインタビューを頼んだところ、齋藤精一さんが貴重な時間を割いて来てくださったことは、今も強く心に残っています。学生という立場は大きな資産で、熱意があれば道は開けると感じた出来事でした。

vol.12 担当 13 期 小林

ピクニックインタビュー当日にまさかの雨に見舞われ、朝から丸の内を走り回って、場所を探しました。日比谷公園の東屋でぎゅうぎゅうになりながら開催したピクニックも今となってはとても良い思い出です！！

vol.14 担当 15 期 岩田・塚本

fab C. 20 周年おめでとうございます。校閲や視認性の向上に努め、フォントや色味の調整など細部まで向き合い、より良い fab C. にしようと重ねた日々が貴重な経験になりました。

vol.16 担当 17 期 北村

OG・学生に当時の思い出などを聞きました。

スキルも計画性も足りておらず、先生方をはじめ沢山の方にサポートいただきました。何とか発行にこぎつけていただき、本当にありがとうございました。苦勞して作ったパブリックライフのページがお気に入りです！

vol.17 担当 18 期 濱松

高柳先生のページの写真を中庭に撮りに行ったことが印象的です。学生数名で和やかな雰囲気の中撮影が進み、20 期の「凄腕カメラマン」のおかげもあって自然な表情を引き出せました。写真の装飾も楽しかったです。

vol.19 担当 20 期 大上

今年は 20 周年というだけでなくプロジェクトや水場の施工など、記載する内容が盛り沢山だったので台割を考えるのが難しかったです。こうして過去の編集者にもお話を伺うことが出来て充実した一冊となりました！

vol.20 担当 21 期 小川

担当した年は研究室のイベントや学生の個人活動が数多く、全てを載せるための編集が困難でした。同じく係の太田さんはじめ、みなさんのおかげで研究室の一年間を凝縮させた一冊を作ることが出来て良かったです！

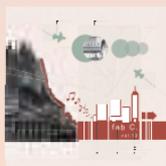
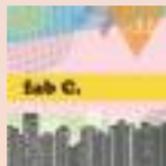
vol.18 担当 19 期 辻本

fabC の台割をしっかりと先生に見てもらう前にデザインを作ってしまった、すごく反省しました、その後も先生自ら私のパソコンと向き合ってくれて、アドバイスを沢山いただいて、本当にありがとうございました！

vol.19 担当 20 期 窪木

今年は 20 周年ということもあり内容も濃く、考えることも多くありましたが、研究室での一年を改めて振り返る良い機会となりました。

vol.20 担当 21 期 篠木



伊藤研の水場をリニューアルしました！



工務店勤務経験のある三栗野先生にご指導いただきながら、水回りのデザインや施工を学生が行いました。より使いやすく快適な場となるよう意見を出し合い、スタディを繰り返しながらデザインを決め、材料の買い出しと施工を経て完成させました。



三栗野先生には約半年間、助教不在の間の研究室活動補助のため、研究や設計指導のほか、流域治水に関するレクチャーや、水場の改修デザイン・施工指導に携わっていただきました。

三栗野先生コメント

水場の改修は、研究室でのワークショップによる与条件の整理から始まり、デザインコンセプトの検討や施工を進めてもらいました。ワークショップでは水場だけでなく、研究室の環境や使われ方についても多くの意見が集まり、水場と意見との関係性を読み解きました。デザイン指導や設計の段階で重視したことがあり、それは「共感」という視点から、人の思いや関係性をつなぐ過程（プロセス）を大切に、それらを空間としてシンプルに統合するデザインとすることでした。完成した水場は「リフレッシュできる場」をコンセプトに、ラワン材や蜜蝋ワックスといった自然素材を選定し、利用者がやすりがけすることによって上質な肌触りに仕上げる過程を取り入れました。その結果、素材に触れるために人が自然と集まり、居心地のよい空間が形成されたのではないかと感じています。今後、皆さんが都市や建築、コミュニティといった場をデザインする際には、「共感」を生むプロセスや素材などを踏まえたデザインを構築する視点を大切にしてほしいと思っています。

中心に検討や施工を進めてくれた学生からもコメントを頂きました。

今後、数年あるいは数十年にわたって使われ続けられるものをデザインし、さらに施工まで携わることは初めての経験で、とても良い機会となりました。三栗野先生にご指導いただく中で、部材ひとつを見ても厚みや素材など数多くの検討が必要であることを学び、デザインを形にするまでの難しさと自身の手で施工する達成感を味わうことが出来ました。(辻本)

三栗野先生には、設計から施工まで丁寧に指導いただきました。材料の買い出しに同行した際、ホームセンターに並ぶ膨大な種類のねじや釘の中から最適なものを迷うことなく選ぶ姿を見て、「ものづくりのプロとはこういうことなんだ」と実感しました。移動中や作業の合間に修士設計や今後の人生について様々なお話ができたこともいい思い出です！（大上）



三栗野 鈴菜さん

2020年4月より社会人博士として千葉大学大学院園芸学研究科に進学。kurosawa kawara-ten に勤務し、新築住宅、古民家や空きビルのリノベーション、地域プロデュースを担当。

受賞おめでとうございます！

日本都市計画学会学会賞 論文奨励賞受賞 (常泉佑太さん)

テンポラリーパブリックアートの実現プロセスにみる公共性に関する研究

受賞理由

本論文は、テンポラリーパブリックアートという研究の蓄積が少ないテーマに果敢に取り組み、2010年代に行われた企画主体が異なる複数のテンポラリーパブリックアートの実現プロセスの比較から、都市の公共空間の社会的役割の可能性と都市計画の中でのアートの位置づけを再考し、査読論文2本の内容を中心として全8章で構成された博士学位論文である。事例は東京都(NPO)、大阪府(自治体)、横浜市(社会的企業)が選定され、展開された各事業の詳細とアートマネジメントの役割について論じている。関係者の役割・意識等を詳細に把握し、それを「公共性」という視点から比較・評価しており、今後このテーマの研究を発展させていく上での基礎的な研究として評価できる。インタビューに基づく質的研究というアプローチもユニークである。丹念な調査と、その分析に基づくテンポラリーパブリックアートの公共性に関する3次元ベクトル表現などの提案は大変興味深く、日本都市計画学会論文奨励賞に相応しいと判断した。(受賞作品一覧 | 学会賞 | 表彰委員会 | 公益社団法人 日本都市計画学会 <https://www.cpij.or.jp/com/prize/award/list.html> (2025))



博士論文をまとめるのは本当に大変でしたが、このような賞を頂けて心から嬉しいです。伊藤研究室で研究に打ち込むことができたことは本当にかげがえのない経験でした。伊藤先生をはじめ、みなさまに感謝の気持ちでいっぱいです。今後も研究者としてより一層、都市や世界の探究に取り組んでいきたいと思っています。この度は、誠にありがとうございました。

日本建築学会 優秀卒業論文賞受賞 (高久直希さん、森雅樹さん)

人口分布の特徴把握のための解析手法に関する研究 一スケール間での密度の差異に着目して一

受賞理由

本論文は、可変単位地区問題(MAUP)に着目し、スケール(物理的な空間や範囲の大きさ)間での人口密度の挙動を解析する手法を提案した。仮想都市と実都市で密度変化を分析して指標特性を明らかにし、人口の局所的集中や分散の特徴を多角的に捉えた点で新規性が高く、集計単位の影響を挙動分析で克服した新規性と、局所的集中・分散を多角的に捉えた貢献が評価される。この狭域・広域の人口分布変化を定量的に評価した手法は、都市の空間分析に新たな視座を提供するものであり、理論と実践の橋渡しを試みている点も波及効果が高い。(優秀卒業論文賞 | 日本建築学会 -AIJ <https://www.aij.or.jp/prize-paper.html> (2025))



栄誉ある賞をいただけたこと、嬉しく思います。本研究を通して、人口メッシュのように一般的なデータのみでも、工夫して観察することで都市の一端を捉えられることを実感しました。また、「データを用いて都市をはかる」ことの意味を再考する、良い機会であったとも思います。高久含め、協力してくださった皆様方、ご指導くださった先生方に感謝申し上げます。(森)

約一年取り組む間「よくわからない」と言われ続けた論文が、対外的に認められて優秀卒業論文賞を受賞することができ、とてもうれしく感じています。ご指導してくださった伊藤先生と高柳先生、多くの示唆をくださった指導院生のお二人を含む先輩方、支え合いながら卒論に取り組んだ同期、そして引っ張ってくれた森に感謝しています。ありがとうございました。(高久)

「生きられた新宿」展 都市の経験 1975-2025



2025年10月25日～11月16日に工学院大学で開催された標記の展覧会に、伊藤研有志で出展しました。これは、1975年に多木浩二が中心となってニューヨーク MOMA で開催した Shinjuku: The Phenomenal City から 50 周年を記念して、MOMA で展示された「経験図」の現代版を展示するものです。東京理科大学伊藤研究室の他に、工学院大学榎原徹研究室及び初田香成研究室、慶應義塾大学ホルヘ・アルマザン研究室、東京大学都市デザイン研究室+早稲田大学有志が出展しました。



伊藤研究室の作品は、多木浩二の「出来事の連鎖」「場所の多元化」を引き継ぎ、「偏光の集積」（経験図）、「断片の複層」（立体作品）と題して、スマートフォンや SNS を前提とする現代の都市の経験を表しました。接する情報によって無意識に出来事が選択される偏光、断片的に情報空間に意識が向けられることで実空間の経験が欠落する断片化について、歴大な写真により作品化しました。

スタジオ中...



総勢 18 人の学生が参加したため、コンセプト作りの議論は長時間を要しました。制作では、メンバーが撮影した約 6000 枚の新宿の写真素材とし、モザイクアートで街区構成が浮かび上がるような色相・明度の写真を配置するようプログラムを組んで試行しました。また、作品の見え方を検証するために複数のモックアップを作成し、配置や構成を調整するなど、表現の精度を高める試行錯誤を重ねました。

世界で学ぶ！

2025年は3名の学生が留学しました。帰国後には、現地で得た知見や貴重な体験を共有しました。

陳 嘉檀

ウィーン工科大学

現在はウィーンに一年間の交換留学をしており、平日は授業・就活・研究に取り組み、休みの日には他国を訪れる充実した日々を過ごしています。留学中に様々な国や都市を巡る中で、人々が公共空間に求める基本的な欲求は共通している一方、その表れ方は文化や価値観によって大きく異なることを実感しました。また、地域ごとに異なるアプローチに唯一の正解はなく、その多様性こそが公共空間の魅力であると改めて感じました。



許山 桂

パリ・ベルヴィル建築大学

パリの大学では、空間の質はもちろん、都市との関係性や建築の機能の部分も丁寧に解くことを求められました。またエスキスでは、英語で先生と建築について議論し、自分の成長を実感しました。大学の友人と原稿を考えた小さなオープンカフェ、授業が理解できず悲しみに暮れながら見た宝石のようなセーヌ川。ささやかな喜びや異国の不自由さで折り重なった日々を、これから宝物のように大切にしていきたいと思います。



劉 雨萌

リスボン工科大学

現地の人々との交流を通じて、多様な文化や価値観に触れ、異なる背景を尊重する大切さを実感しました。言語の壁を乗り越える過程では、自分の意思の伝え方や、相手の立場を理解しながらコミュニケーションを取る姿勢が自然と身につきました。また、これまで座学で学んできた知識を実際に体験することができ、学びをより深める貴重な機会になりました。こうした経験は視野を大きく広げ、今後の学習にも大きな影響を与えるものとなりました。



留学先で集合しました



これから留学します！



リール建築大学での授業や、研究の調査を通して多様な価値観に触れ、成長できます。

上村



先輩方が留学に行かれていた姿に憧れ、自分も絶対に留学しようと思えました！先輩たちのように沢山頑張ります！

窪木

さまざまなまちを訪れました！

春合宿 in 伊香保・前橋

2025年4月4日～5日に、伊香保にて春の研究室合宿を行いました。4年生を中心に、先行研究の調査のしかたなどを学びました。教員や大学院生からアドバイスを受けながら、論文構成を整理し、テーマを位置付ける作業を行うことで、自らの研究の問題設定をするための考え方を実践的に学びました。深夜まで続く作業は決して楽ではありませんでしたが、これから卒業論文に取り組む4年生にとって、大きな一歩となりました。

合宿の前後には、各自伊香保のまちあるきなどをしました。伊香保温泉は群馬県を代表する温泉地で、石段街の延伸やバス停留所の整備などの再生事業、および、石段街を中心としたまちづくりが行われてきています。



2日目の午後は前橋を訪れました。前橋デザインミッション（MDC）の日下田伸さんから、前橋市の官民連携まちづくりについてお話を伺い、再生された馬場川通りなどをご案内いただきました。住民がレンガに名前を刻む仕組みや、著名建築家の建築が多く新しい価値が生み出されている点が印象的でした。その後、グループに分かれてまちあるきを行い、川辺のベンチで過ごす人々や広場で交流する家族など、多様な人が滞留し、賑わいある前橋の様子を見て、まちづくりの成果を実感しました。



MDC 日下田 伸さん



合同ゼミ with 齋尾研究室

2025年5月に東京科学大学岡山キャンパスにて、東京科学大学齋尾研究室と伊藤研究室・高柳研究室の合同ゼミを開催しました。齋尾先生のキャンパス案内に続いて、学生が研究成果を発表し合い、互いの知見を広げると共に新たな視点から講評をいただく貴重な機会となりました。



齋尾 直子先生



夏合宿 in 隠岐島

2025年8月に隠岐諸島を訪れました。海士町で持続可能な地域づくりに向けた取り組みの一端を学ぶと共に、隠岐の島の歴史や文化を知ったり、離島ならではの風景を堪能することができました。みんなで見た夕焼けや星空は息を呑むほど美しかったです。

綺麗な夕焼け



隠岐郷土館

隠岐の島町

西郷港

かっぱ遊覧船



菱浦港

宇受賀舟屋

海士町

隠岐諸島は島前・島後からなる離島です。島前に位置する海士町は、「ないものはない」を掲げ、島留学の高校生や島外からの移住者を受け入れるなど人口減少に挑む地域として知られています。隠岐國学習センター、キンニャモニャセンター、しゃばりば、あまマーレなど、多様な居場所を創出しています。



①屋那の松原 舟小屋群



舟を格納する建物。木造平屋で杉皮葺きの舟小屋が100mにわたって連なっていました。

②隠岐國学習センター



竹内俊博センター長にお話を伺いました！

隠岐島前高校と連携した公立塾。学年を超えた学び合い、対話会や夢ゼミの開催、誰でも使える土間スペースなど、特徴的な取り組みが行われています。建物の構造が昔のまま残り、活用されていたのも印象的です。

③キンニャモニャセンター



海士町の玄関口で来島者と島民が交わる場所です。祭りの打ち合わせ、オンライン会議、観光相談など多様な活動が見られます。

④あまマーレ



旧保育園を活用したコミュニティ施設。訪問時は「あまマーレ芸術祭」を開催していました。ピアノやビリヤードで盛り上がりました。

⑤しゃばりば



役場1階の未来共創スペース「しゃばりば」。訪れた時にはお祭りの準備の打ち合わせをしていました。誰もが気軽に訪れることができます。

横浜まちあるき

2025年10月に、3年生との交流を目的として、横浜でまちあるきをしました。これまでの横浜のアーバンデザインや近年の開発などを事前に学び、当日は3班に分かれ、みなとみらい・新港・関内・中華街などを歩いて実際の様子を見ることができました。その後、まちあるきでの発見や気づきを発表し、共有しました。夕方には、大さん橋客船ターミナルから夜景クルーズ船に乗船し、普段とは違う水上からの都市の夜景を堪能しました。研究室学生と3年生との交流もできました。



横浜市は1971年に全国に先駆けて「横浜市都市デザイン室」を設置し、行政として体系的なまちづくりに取り組み始めた都市です。近年では、みなとみらいを中心としたウォーターフロント再生と、緑の軸線による環境ネットワーク整備により、海と緑が融合した魅力ある都市空間を創出しています。

関宿巡検

2025年10月に関宿城博物館見学と境町の自動運転バス乗車をしました。博物館では利根運河をはじめとした利根川水系の歴史と現在について学び、自動運転バス乗車では最新の技術について学びました。建築だけでなく土木についても知る良い機会となりました。



豊田調査

総勢16人が参加して調査を行いました。調査前後に豊田のまちなかも見学しました。



三陸巡検

復興の状況やBRTなどを視察するとともに、唐桑の歴史や文化のお話を伺いました。



研究室メンバーが訪れたまち

学生たちが、さまざまな活動を通して各地に足を運びました。



ピクニック

伊藤研究室では、地域を知り、公共空間を使いこなす取り組みとして、ピクニックを行っています。



KK 線ピクニック

2025 年 4 月 5 日に廃止された KK 線（東京高速道路）は、跡地を歩行者空間として活用する計画があります。将来の歩行者空間化に先立ち、東京建築祭のイベントとして、KK 線上でピクニックを行いました。伊藤教授による KK 線の説明を聞きそこから見える建築を見ながら歩いた後、「お尻で道路を感じる」ピクニックを行いました。数日前まで自動車が行っていた道路に座る貴重な経験でした。

春ピクニック

2025 年 5 月 11 日に、東京五輪選手村エリアを経て再整備された晴海ふ頭公園で開催しました。レインボーブリッジを臨む芝生広場は、家族連れから個人まで多くの人で賑わっていました。子供たちは自由に駆け回り、学生もその場で出会った子と遊び、同じ空間と時間を共有して楽しみました。卒業生も参加して、賑やかなピクニックになりました。



ピクニックインタビュー

ピクニックインタビューでは、毎年ゲストを招き、くつろいだ雰囲気の中でお話を伺っています。今回は、ホルヘ・アルマザンさんにお話を伺いました。



ホルヘ・アルマザンさん

慶応義塾大学理工学部システムデザイン工学科教授。2003 年マドリッド工科大学卒業。2001 年ダルムシュタット工科大学留学。東京工業大学にて博士課程修了。2009 年より慶應義塾大学に勤務し、建築デザイン研究室「スタジオラボ」を主宰。

建築という学問を選ばれた理由を教えてください。

元々幼少期からアートとサイエンスの両方に興味があったのですが、絵を描くことだけだと物足りないと感じていました。社会的な仕組みまでも考えるのが職業として面白いと思い建築分野に進もうと決めました。建築や都市デザイン分野はアートから政治、文化まで幅広いのが魅力的です。

東京を理解したい

なぜ日本に拠点を置くことにしたのですか？

20 歳の時に、バックパッカーで日本を旅行したときに、東京が印象に残りました。この都市は一体何なんだろう！と思い、理解したい気持ちがありました。もちろん日本の建築家への憧れもあり、東京にいると色々な建築家とのコラボレーションや学ぶ機会もあることから東京に拠点を置くことにしました。

東京で活動されるようになってから他の国や都市を見る目は変わりましたか？

もちろん変わりました。例えば東京に住むと、東アジアの都市の見方も変わるんです。例えばバンコクに行ったときに、日本と同じだと感じることもありました。都市開発のフェーズは違いますが日本の戦後の闇市とバンコクのインフォーマル



バルセロナのスーパーブロック計画

るな地区は少し似ていると説明してもらいました。だから、東京を見ることによって、東アジアの都市も理解できるようになるのではないかと思います。

街を自分で観察して、地図化する

研究やプロジェクト活動で、地域の方と一緒に進める機会に、何を大切にしていますか。

活動は大きく2種類あって、1つは東京、もう1つは地方で行っています。地方での活動は、実際にリノベーションに関わったり、設計したり実践を行うことができます。その際に何が大事かという、そのエリアをよく観察することです。もちろんインタビューも行いますが、インタビューだけでは足りません。他に、昔からやっている方法として地域や人の主観性をマッピングすることも行っています。40人くらいに地図を用いたアンケートを取るんです。好きなところと嫌いなところを選んでもらうと、二つが重

なることがあるのですが、恐らくそこは地元の人たちの中で議論されている場所なんです。つまり、みんなにとって大事な場所ですね。そこに一番改善のチャンスがあるなと思います。

アクションリサーチの魅力があれば教えていただきたいです。

アクションリサーチというのは昔から社会学や心理学で使われている方法なのですが、ある問題に対して、アンケートやインタビューを行うのではなく、行動してみてもその結果をみることです。例えば、商店街沿いで予算を集めてリノベーションを行って仮設のカフェを開いてみるとかですね。都市や建築は複雑すぎて、どのパラメーターが一番大事なのか分からない時がありますが、一度やってみることが大切です。日本では1日だけの短期間で行われるものが多いですが、バルセロナでは、数年間行うことが多いです。スーパーブロック計画は有名な事例ですね。そこで得られた実際の行動をデータ化し事実を伝えることで住民の方の意見もまとまりやすいと思います。皆さんも設計の経験があると思うのですが、実際に模型を作ってみると納得しやすいと思います。それと同じで、小さなアクションを起こすというのは街づくりの模型のような気がします。

東京の面白さをどう残すのか

東京で残すべきものと変わっていくべきがあれば教えていただきたいです。

東京は巨大で色んなものがありますよね。基本的に私は今の大規模再開発に批判的です。多分東京は成熟していて、どんな都市にしたいかを考えてもいい時期だと思います。抽象的に言うと、街のスケールによって色々な生活空間が出来ているんです。例えば、路地空間から幹線道路まで多様な都市空間がありますよね。角を曲がると違う空間が存在するのが東京の面白さだと思っていて、そこをどう残せばいいのかというのは大きな問題だと思います。歴史的なことという、東京は江戸時代には水の都市でした。しかし、60年代に作られた多くの高速道路は川の上に作られているので一部を解体してもいいんじゃないかと思っています。そして、川に光が入ればエコシステムを再生して川沿いに新しい公共空間をつくるのが出来ます。また、川沿いは涼しいのでヒートアイランドを緩和する効果もあります。韓国の清溪川は日本でも納得のいく事例だと思います。写真としては日本の高速道路とか高架下はカッコいいのですが、だから一部はモニュメントとして残すとかいいのではないのでしょうか。

都市を学ぶ上で学生に身に付けてほしい力はありますか？

旅行していろんな街を見ることです。もちろん本を読むといった理論も大事ですね。ジェイン・

ジェイコブズの『アメリカの大都市の死と生』とかもとても参考になります。でもやっぱり一番大事なのは海外に行って様々な都市モデルをみることです。東京ではあり得ないものがバルセロナでは行われていたり、逆も然りで。色んな都市を見るとすでに存在して、実験されていることがあるので、それを理解してみるのいいと思います。理解すると自分にとっての街づくりの可能性が広がる気がします。

学生に向けてメッセージをいただきたいです。

日本の教育システムの素晴らしいところは研究室があるところで、新しい思考を生み出すための団体だと思うんですね。伊藤先生は東京都の色んなプロジェクトに関わっていますが、考えられることは一人に限定されますよね。そこで皆さんの会話とかアイデアとか、頭のネットワークをコーディネートして将来の東京と一緒に考えられたらいいと思います。



研究室活動

オープンラボ

伊藤研 OB で E-DESIGN でアートを担当する常泉さんから、博士研究やアートプロジェクトのお話を伺いました。



学会発表

AII 九州大会に参加しました。日々の研究成果を発表し、様々なアドバイスをいただく貴重な機会となりました。



論文合宿

2024 年末に静岡県伊東市で行った論文合宿。徹夜作業が明けて朝日を浴びながら皆でしたラジオ体操が思い出に残りました。

トヨタ自動車共同研究

地域社会における民間企業の役割を見据え、特に空間に関する議論をしています。地域に愛される企業拠点とは何かを考えます。

骨格推定解析技術共有会

伊藤研 OB の平井さんから、修士研究で用いていた MMPose の概要や仕組みをご説明いただきました。



中庭ピクニック

天気の良い日は中庭にラグを敷いて過ごします。昼食や昼寝、ときには研究相談などをするもあります。



シビックプライド研究会

19 年目を迎えました。学生だけでなく様々な期の研究室の卒業生もメンバーとして参加し、3 冊目の書籍出版に向けて活動中。

論文・設計

<2023 年度博士論文>

常泉佑太 テンポラリーパブリックアートの実現プロセスにみる公共性に関する研究

<2024 年度修士論文>

天野航一 神奈川県における大型商業施設の業種構成と立地に関する分析

伊藤陽人 所有管理主体の異なる公園的空間がもつ特性とそこに見出される価値—利用者アンケート調査に基づく実証分析—

佐藤水香 子ども・子育て支援新制度に伴う保育需給の変化に関する時系列空間分析

辻耀 スケッチマップの描画要素にみる大学生のキャンパス周辺の空間認識—描画率・描画順に着目して—

濱松翔 通勤時間と私生活活動に着目した東京圏の居住地効用分布に関するモデル研究

南谷優太 住商混在地域の建物平面形状と用途の時系列変化

—東京都台東区蔵前三・四丁目を対象として—

<2024 年度卒業論文 (通年コース)>

上村知輝 佐々木俊太 空間と交通の観点からみた宿場町の形成と変容

—中山道 塩尻宿から中津川宿を対象として—

小林凌真 佐野菜那 ネットワークとしてみる半島集落群の特性

—愛媛県伊方町佐田岬半島でのケーススタディー— **最優秀卒業論文賞**

高久直希 森雅樹 人口分布の特徴把握のための解析手法に関する研究

—スケール間での密度の差異に着目して—

<2025 年度卒業論文 (一般コース)>

東祐輝 藤沢 SST のタウンサービスからみるスマートタウンの特徴

待ち合わせの指示表現にみる場所の捉え方

—トーク履歴を用いた分析—

小川みなみ 津布久大輝 骨格推定を用いたつろぎ - 緊張状態の着座姿勢の比較

優秀卒業論文賞

<2024 年度修士設計>

濱口桂帆 風を織りなす建築—自然とともに移ろう島の拠り所— **高沖賞**

四方田綾乃 動物とつくる生活—都市における畜産業の提案— **鈴木賞**

<2024 年度卒業設計>

大上翔子 街に植え、育てる

鈴木悠真 私を広げる

鎌田航 舟と、河と暮らす街へ

須藤喜己 永帯葬送 **石村賞**

窪木愛乃 まちを照らす道 **卒業設計 14 選**

高橋奎介 このまちの上で



濱口桂帆



四方田綾乃



窪木愛乃



須藤喜己



<査読付き論文>

辻本桜子, 許山桂, 伊藤香織, 高柳誠也 (2025), 「演劇の街」下北沢における劇場群に関する研究: 公演記録に基づく劇団の活動に着目して, 日本建築学会技術報告集, 31(78), pp.935-938

陳嘉楨, 伊藤香織, 高柳誠也 (2025), 骨格推定を用いた公共空間におけるベンチ着座姿勢に関する分析, 日本建築学会技術報告集, 31(78), pp.1029-1033

<対外発表>

Seiya Takayanagi, Kanna Sano, Ryoma Kobayashi, Kaori Ito (2025), Transition and Characteristics of Road Clearance Based on Government Announcements During Multiple Disasters in the Noto Peninsula in Japan, Proceedings of the ICA, International Cartographic Conference 2025.

Yuma Suzuki, Kaori Ito, Seiya Takayanagi (2025), University Students' Cognition of the Campus Town Represented in their Sketch Maps, Abstracts of the ICA, International Cartographic Conference 2025.

高橋奎介, 須藤喜己, 伊藤香織, 高柳誠也 (2025), Code for Kakegawa の活動実態とその要因 (その1): 活動内容と参加者の有する職業やスキル, 日本建築学会学術講演梗概集, pp1111-1112

須藤喜己, 高橋奎介, 伊藤香織, 高柳誠也 (2025), Code for Kakegawa の活動実態とその要因 (その2): 点群データ・マインクラフトプロジェクトに着目して, 日本建築学会学術講演梗概集, pp1113-1114

鈴木悠真, 辻耀, 伊藤香織, 高柳誠也 (2025), スケッチマップの描画要素にみる大学生のキャンパス周辺の空間認識: 描画率・描画順に着目して, 日本建築学会学術講演梗概集, pp359-360

許山桂, 伊藤香織, 高柳誠也 (2025), バリのトラムにおける停留所の空間的特徴に関する基礎的研究, 日本建築学会学術講演梗概集, pp965-967

安藤朋恵, 伊藤香織, 高柳誠也 (2025), 移動型障害物を中心とした歩行者の挙動変化: タイ・バンコク市サンベン市場を対象として, 日本建築学会学術講演梗概集, pp987-988

劉雨萌, 伊藤香織, 高柳誠也 (2025), 地形と街路の接続性からみる滞留行動の特徴: リスボン旧市街地 Alfama 地区を対象として, 日本建築学会学術講演梗概集, pp999-1000

高久直希, 森雅樹, 伊藤香織, 高柳誠也 (2025), スケール間での密度の差異に着目した人口分布の特徴把握のための解析手法に関する研究その1: 仮想都市による手法の検証, 日本建築学会学術講演梗概集, pp1209-1210

森雅樹, 高久直希, 伊藤香織, 高柳誠也 (2025), スケール間での密度の差異に着目した人口分布の特徴把握のための解析手法に関する研究その2: 実都市への適用, 日本建築学会学術講演梗概集, pp1211-1212

辻本桜子, 伊藤香織, 高柳誠也 (2025), 東北地方の公立文化施設の立地と複合する用途の変遷, 日本建築学会学術講演梗概集, pp607-608

小林凌真, 佐野菜那, 伊藤香織, 高柳誠也 (2025), 愛媛県伊方町佐田岬半島における集落群の特性その1: 集落属性の類型化から見る半島の地域構造, 日本建築学会学術講演梗概集, pp137-138

佐野菜那, 小林凌真, 伊藤香織, 高柳誠也 (2025), 愛媛県伊方町佐田岬半島における集落群の特性その2: グラフ理論によるネットワーク分析, 日本建築学会学術講演梗概集, pp139-140

窪木愛乃, 大上翔子, 鎌田航, 伊藤香織, 高柳誠也 (2025), 日常生活における住民の印象に残る場所とその特徴: 浦安市でのワークショップ型インタビュー調査を通して, 日本建築学会学術講演梗概集, pp625-626

古林陸, 伊藤香織, 高柳誠也 (2025), 鉄道在来線と高速バスの運行状況からみる圏域の推定及び特徴の考察: 東北地方を対象として, 日本建築学会学術講演梗概集, pp393-394

上村知輝, 佐々木俊太, 伊藤香織, 高柳誠也 (2025), 決定木を用いた宿場町の規模変化の要因分析: 中山道塩尻宿から中津川宿を対象として, 日本建築学会学術講演梗概集, pp429-430

秋本尚美, 工藤由貴, 梶洋隆, 伊藤陽人, 伊藤香織, 高柳誠也 (2025), 公・民が提供する公共空間への愛着・シビックプライドに関する基礎的検討: Lasso による利用者アンケート分析を通して, 2025 年度日本建築学会学術講演梗概集, pp.1057-1058.

許山桂, 伊藤香織, 高柳誠也 (2025), フランス諸都市における LRT のトランジットモールに関する基礎的研究, 第 72 回土木計画学研究発表会・秋大会予稿集, 17-02

上村知輝, 伊藤香織 (2025), 炭鉱都市夕張における縮退様相の地区比較, CSIS Days 2025 全国共同利用研究発表大会 研究アブストラクト集 C09.

<2024 年度みんなの万博アイデアコンテスト>

辻本桜子 朱鳳亭 (東京大学) Choi S stand ~ちょっとした1杯から始まる健康~ 金賞